



着任のあいさつをするチャンバース少佐(右)

車力通信所の新所長にチャンバース少佐が着任

Xバンドレーダーが配備されている米陸軍車力通信所の所長が7月17日付で交代となり、米国オクラホマ州からクリストファー・チャンバース少佐が着任しました。

7月1日、交代に先立ちチャンバース少佐が福島市長に着任を報告。福島市長が「コロナで大変な時期だが、隣国にも動きがあるようなのでよろしくお願いいたします」と話すと、少佐は「激励をいただき光栄。今まで続けてきた地域とのパートナーシップを今後も続けていきたい」と抱負を述べました。

離任する現所長のジョン・ナスラス少佐も同行し「見たことがない文化を体験し、地域の方々がとても良くしてくれた。ここで働けたことを光栄に思う」と感謝の言葉を話していました。

恒例の「木造夕市」がスタート

7月2日、市商工会駐車場で「木造夕市」が始まりました。

夕市は、木造夕市の会（八木橋リウ子会長）の会員14人が、自分で作った野菜や加工品を持ち寄り路上で販売するもので、地域に愛され今年で31年目の開催となります。この日は、キュウリやトマトのほか、豆腐や漬物、笹餅、採れたてのミズなどが並べられ、オープンを待ち望んだ大勢の市民らが、生産者と会話を交わしながら買い物を楽しんでいました。五所川原から訪れたという60代女性は「友人から聞いて初めて来たが、新鮮な野菜が安く買えて嬉しい」と満足そうでした。夕市は10月末までの毎週木曜日15時から開催（8/13、10/8は休み）。お盆（8/12）と十五夜（10/1）には特別セールも予定されています。



買い物客でにぎわう会場



「つがるもち麦 美仁」を福島市長に手渡す小館誠一代表取締役（中央）と小館史武代表取締役（右）

市産のもち麦 給食で味わって

7月6日、農業法人SKファーム（小館誠一代表取締役）とえすけーず農園（小館史武代表取締役）が、市内の精麦工場生産した商品「つがるもち麦 美仁」8,800食分を市の教育委員会に寄贈しました。寄贈品は市内の学校給食で活用されます。

原料となるもち大麦の品種「はねうまもち」には、玄米の3.5倍、白米の21倍の食物繊維が含まれており、両社はその健康機能性に着目。児童生徒の健康増進に貢献しようと、今回の寄贈に至りました。小館誠一代表取締役は「短命県返上をつがる市から、子どもたちの食育から」という思いを語り、福島市長は「子どもたちの反応が楽しみ」と期待していました。なお、両社は市社会福祉協議会にも同商品1,000食分を寄贈しました。

7月6日は「メロンの日」

「つがる市メロンの日」の7月6日、市内各所で市産メロンのPRが行われました。メロンの日は、数字の「6」がメロンの弦と玉に似ていることや、収穫後約6日で食べごろになることにちなみ、つがるブランド推進会議が平成29年に定めた日です。この日は、市内のこども園と小中学校の給食に糖度15度以上の「タカミ」を478玉用意し、教職員も含め3,401人に8分の1カットが振る舞われました。育成小学校4年の佐々木眺夢君は「つがる市特産のメロンは甘くておいしい」と笑顔で話していました。また、市内のスーパーや直売所合わせて11店舗では、タカミを特別価格1玉666円で販売。全部で1,560玉が用意され、贈答用として買い求める客などでにぎわっていました。



メロンを頬張る児童

こんにちは！三村知事

三村申吾青森県知事が県内の小中学校を訪問して児童生徒と交流する「未来デザイン県民会議 こんにちは！知事です」が7月7日、稲垣小学校（三上高弘校長）で開催され、4～6年生73人が、三村知事らと意見を交換しました。

この日は、5年の澤田篤人君と横山琉留さん、6年の佐々木麻緒さんと田村優来さんが児童代表となり、本県の農産物PR戦略や少子化対策、短命県返上のための活動、若者定着に向けた取り組みなどについて三村知事に質問をぶつけ、知事と県職員が児童の疑問に答えていました。三村知事は「君たちの未来が青森県の未来。君たちがふるさとで人生をがんばれる土台を作るため、いろいろな声に答えていきたい」と話していました。



児童らと意見を交わす三村知事



雨の中、多くの買い物客が訪れた会場

早朝の商店街にぎわう

7月12日、木造の街の駅あるびょん周辺で毎年恒例の朝市が開幕しました。朝市は10月まで、毎月第2日曜日の朝6時30分から同会場で開催する予定で、月替わりの目玉イベントなどを用意して買い物客を迎えます。

この日は、地元でとれた旬の野菜や鮮魚、作りたての総菜などが会場に並んだほか、毎年人気のしじみ貝のすくいどりやジャガイモすいとん汁の無料振る舞いなどが盛況。今月の目玉イベントであるメロン・スイカの試食販売も人気を集め、多くの市民でにぎわっていました。

宮本純一商工会長は「この地域が元気になるように商店街の活性化を推進していきたい」と話していました。

甘～いメロン、全国へ

つがるブランド認定メロンの出荷式が7月14日、ごしょつがる農協木造総合支店で開催され、関係者約30人がつがる市自慢のメロンの出荷を祝いました。

この日は、主力品種タカミを中心に2,600箱を名古屋・大阪に向けて出荷しました。式典では、つがるブランド推進会議会長を務める福島市長が「全国から信頼される産地としての地位を確立できるよう魅力を発信していく」と力を込め、出席者全員でトラックの出発を見送りました。

同推進会議によると、今年は糖度が高めでプレミアム（糖度17度以上）の割合が高くなっているとのこと。出荷目標20万箱、売り上げ目標5億円とし、9月中旬まで出荷が続きます。



メロンにつがるブランド認定シールを貼る福島市長ら



メロン畑を巡回する菊池署長(手前)ら

「メロンロードパトロール隊」 出動

市の特産品であるメロンやスイカなどを盗難被害から守ろうと、毎年収穫時期に合わせて、市防犯協会、つがる警察署、市防犯指導隊、市内の防犯ボランティアらが「メロンロードパトロール隊」を結成し、盗難防止に努めています。

7月22日に市役所前で行われた出動式では、市防犯協会会長を務める福島市長が「2016年には吹原地区でメロン約450個が盗難被害に遭った。二度とこのような盗難が発生しないよう関係者一丸となってパトロールを強化しよう」と隊員らを激励。市防犯指導隊の藤本正彦副総隊長が決意表明をした後、約20人の隊員がメロン・スイカ畑の巡回に出動しました。

菊池智和つがる警察署長は、木造菰植にある佐藤哲郎さんの園地を視察し「生産者が大切に育てた農産物を守るため、緊張感をもってパトロールにあたりたい」と決意を述べました。